

## 令和元年度第1回かつの未来会議

日 時：令和元年9月30日（月）18時30分～20時30分

場 所：鹿角市役所 第1・2会議室

出席委員：13名（欠席：高谷委員、奈良委員）

出席職員：阿部副市長（以下、事務局）

〔政策企画課〕阿部課長、古田政策監、海沼主査、佐藤主査

### 1 開会（進行：政策企画課 古田政策監）

ただいまから、令和元年度第1回かつの未来会議を開会いたします。

### 2 委嘱状交付

阿部副市長より当日出席委員13名へ委嘱状を交付。

### 3 出席者自己紹介

出席委員13名および出席職員による自己紹介。

### 4 副市長あいさつ

皆さま、お晩でございます。

本日は、急きょ市長の公務が重なりまして、代わって出席させていただきました。

本日はお忙しいところ、かつの未来会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、皆さまには向こう2年間、委員の就任にご快諾いただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では昭和47年の市制施行以来6度にわたり、市政運営の指針となる総合計画を策定してまいりました。現在、第6次総合計画が進行しておりますが、地域産業の活性化と雇用の創出を最重要テーマとして推進しており、また、人口減少及び少子高齢化の抑制策として、移住の促進にも力を入れることで一定の成果を上げてまいりました。しかしながら、近年は産業全体における労働力不足が顕在化しており、持続可能な地域づくりの大きな課題となっているほか、働き方や暮らし方の多様化、さらには情報通信技術の急速な進展による超スマート社会の到来など、本市を取り巻く社会経済情勢は様々な局面で大きく変化してきております。

人口減少時代の中で、こうした情勢への変化に対応していくため、本市では令和3年度を初年度とする「第7次鹿角市総合計画」の策定を進めておりますが、総合計画は長期的な展望に基づく市勢発展の礎として、本市の未来を切り開いていくものであります。本市が目指すべき将来の姿や、まちづくりの大局的な方向性

を見据えた創造力のある計画としていくためにも、地域の最前線で活躍されている皆さまの声をお聞きしながら、市民一人ひとりが幸せになる仕組みをつくってまいりたいと考えております。

先ほど委員の皆さまから自己紹介していただきましたが、大変心強く感じております。

結びになりますが、委員の皆さまより、忌憚のないご意見を頂戴しながら、計画の策定を進めてまいりますので、何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げ、一言挨拶とさせていただきます。

## 5 議事

(1) 会長等選出（進行：副市長→会長選出後から会長が進行。副市長退席。）

・会長選出

要綱では、委員の互選。立候補者 → なし

事務局案（安保 朗委員を提案） → 承認

### 【会長あいさつ】

行政には行政の役割と責任があるように、市民にも役割と責任があると思います。皆さん、それぞれ立場が違うと思いますので、自分たちのより良い未来をつくるために多くの意見を出していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

・会長代理の指名

会長が村木定七委員を指名。

(2) かつの未来会議の概要とスケジュールについて（資料1・2）

説明：政策企画課 海沼主査

(3) 理想とする将来のまちの姿について（資料3・4・5）

説明：政策企画課 佐藤主査、海沼主査、古田政策監

### 質疑応答

(委員) 市民アンケートは、他の似たような人口規模の都市でも実施しているのでしょうか。実施しているのであれば、他市との傾向の違いが鹿角市の課題を探る上で参考になると思ったのですが。

(事務局) 他の自治体でもアンケートは実施していますが、鹿角市のアンケートと同じ条件での実施ではないと思いますし、詳細な調査内容までは把握しておりません。

(委員) 住みごごちについての設問で、50代で「住みごごちがよい」を選択する人が極端に下がっています。

50代の方は、子どもさんがいる場合、子どもが大学生くらいになる世代だと思うので、その世代が住みごごちが良くないと感じる人が多いのであれば、子どもの卒業後の進路にも影響してくるのではないかと思います。資料5の人口推計について、2025年から2030年は緩やかな減少なのに対し、2030年以降に大きく

人口が減っていますが、何か原因は分かっているのですか。

(事務局) 資料5の2025年の人口に誤記があり、24,803人とあるものを、26,803人に訂正をお願いします。基礎データ資料集14ページにも同じ将来人口推計を載せております。2030年にかけても減少割合に大きな差はないと推計されています。

(委員) 中高生アンケートはとてもいい取り組みだと思います。地区別の居留意識の分析結果では、地域の伝統文化の継承や活動が活発な地域に住む生徒の数字が良いようなので、地域活動が大切だと感じます。

(事務局) 中高生アンケートについては、現在も詳細な分析を追加している最中です。地区別に関して、グラフではまだ載せておりませんが、より詳細に分析して今後お示しすることとしております。

(委員) 住みごこちについては、普段感じているものと同じような結果だと思います。移住してくる人や観光客から、自然が良いという声を聞きますし、今、いろいろな所で災害が多いですが、鹿角は少ないという話もしているのです、それが数字に表れていると思います。住みごこちが良いと感じない理由で、医療と福祉環境がありますが、私も介護が必要な家族がおり、危惧しているので、将来的に改善していければいいと思いました。中高生のアンケートでは、一度鹿角を出ても戻るといった数字も出ているようですが、私にも子どもが3人いまして、1人ようやく地元に戻ってきたのですが、将来的には出ていくという話もしています。やはり仕事の関係や給料などの差が大きいことも関係しているのかなと思いました。

(委員) 今は四世代で暮らしていますが、昔は都会で暮らしていてUターンしてきました。私たちの世代は、長男が後を継ぐという意識が強い時代で、親を思う気持ちが強く、帰ってきました。家族も最初は嫌がりましたが、住み慣れると気に入ってくれて、今は大家族で暮らしています。これからは、親子関係を大切にするような試みを考えてほしいと思います。

(委員) 子どもは都会に出てしまったのですが、年寄りにはいいまちだと感じています。自分を含め、元気な年寄りを増やしていきたいと思って、シルバーリハビリ体操など頑張っています。

(委員) 生まれも育ちも鹿角で、東京にも10年近く住んでいて、子どもを持ったことをきっかけに鹿角に戻りました。そういう背景からすると、どれだけ大人が子どもに対して、鹿角を好印象を持って見せられるかが大事だと思います。30代の子育て世代の回答があまりいい数字でなく、これが後々の人口減少につながるような気がするため、14歳くらいまでの子どもと、子育て世代の鹿角への印象を良くするのをセットにして取り組んだ方がいいと思います。中高生は、成長の過程で都会に憧れを持つのは健全だし、素晴らしいことだと思います。私も3人子どもがいますが、自分のように一度外に出てから鹿角に戻ってほしいと考えていますし、良い面を比べる目を持つのは鹿角にとってもいいことだと思います。

(委員) 高校卒業後、いずれは地元に戻るといった約束をして東京で就職し、30代手前で戻ってきました。地元はだんだん人口が減るといったことも分かっていたので、住んでいくまいと思っていましたが、離れることで地元の良さが見えてくると感じました。当然、だめなところも見えるのですが、自分は、都会に出なければ今のように市民活動にも積極的に参加していなかったのではないかと感じています。中高生を地元から出ないように、というよりは、一度は外に出ていろいろな経験をして戻ってきた方が厚みのある人生になるのではないかと思いますし、若い人たちが可能性を感じられるような教育や戻ってこられるような環境づくりが必要なのではないかと思います。

(委員) 市民アンケートの回答者が480人ということでしたが、すべて有効回答ですか。

(事務局) 一部の設問で無回答のものも含まれます。そちらは無回答で結果を出しております。

(委員) 無回答の割合が高いように感じます。設問の段階での問題なのではないかと思いました。属性とのクロス集計はしていますが、設問と設問とのクロス集計はしていないのですか。

(事務局) 4ページの⑦のグラフは住みごこちについての設問と愛着の有無の設問のクロス集計、7ページの⑦のグラフは将来のまちの姿についての設問と愛着の有無別のクロス集計となっています。

(委員) 産婦人科がないということで、若い人が定着しないと思います。また、学生は、卒業後に地元に残る人が少なく、働く場がたくさんあって給料が良いところに行く傾向があります。人口構造の若返りという目的があるけれども、産婦人科がないので若い人が定着しない、子どもが産まれない、学校に行っても戻ってこないという悪循環になっているのではないかと感じます。これから対策を考えるのだと思いますが、一番の問題は産科がない、若い人が定着しないということだと思います。また、高齢者の数を維持すること、できるだけ長生きしてもらうことが必要だと思います。私もシルバーリハビリ体操の活動をしていますが、高齢者に対してもお金をかけることが必要だと思います。

(委員) 鹿角に来て9カ月くらいなのですが、生まれが東京で、京都や埼玉などにも住んでいました。仕事の給料面では他とは全然違いますが、鹿角は自分でクリエイティブに生み出すことができる可能性を持つ場所だと感じています。あるもので何とかしようとするには限界があるのかもしれませんが、自分で何かを作り出す、考える力を持っているといろいろな可能性がある場所だと思います。私も若い人たちが一度都会に出ることはいいことだと思います。都会で経験を積み、学んだスキルを活かせるのは30代中盤くらいからになると思うので、そういう年代の人たちが増えて、起業して、活性化して働く場が増えたときに、そこで働ける20代の居場所ができるという順番なのではないかと思っています。一度都会に出てから、戻りたいと思ってもらうには、子どもの時の経験がとても大事であり、大人が楽しんでいる姿や活気のあるまちを見て、自分が住んでいたところは良かったと思えると思います。また、大人が楽しんで子どもを巻き込む、大人が鹿角の良さや自分たちのまちの自慢をもっと伝えることも大切だと思います。先ほど話が合った親子関係を良くすることも大切なことだと感じます。中高生アンケートで、温泉というキーワードが出ていないのが意外に思いました。これほど温泉が多く、特色のあるところは他にはないと思います。当たり前すぎて分からないのかなと思います。

(委員) 自分の友人などを見ると、市外に一度出てしまうと、戻ってくる人がほとんどいないという印象があります。鹿角市の魅力が分からないのが大きいのではないかと思うので、鹿角の良い部分を、小さい頃から伝える必要があると思います。自分たち大人が、本当に鹿角の良さを分かっているかと言われたら、何も無いと言ってしまふ人もいることは、考えさせられます。人口が3万人を切るという話でしたが、そもそもなぜ人口が少ないといけないのでしょうか。自分なりに考えると、私は楽しく暮らしたいという願いがあり、人口が少ないとそこに寂しさを感じます。そのため、これから子どもをもっと持ちたいという希望もありますが、出産が大館になるのは不便なので、そういう部分も見直して、良い方向に向かえばいいと思います。

(委員) 中学生のアンケート結果だったと思いますが、学校を出たら市外に行くことを考えている層で、地元には仕事がないという声があったと思います。小さい時は単純に地元が好きと思っていても、大きくなるにつれて将来のことや仕事のこと意識するようになるのでしようが、就きたい職業があっても地元で実現している人が身近にいないので、現実的に自分の将来と結び付けられないような気がします。でも、少なくとも地元には実現できる環境がないから、実現できる場所へ出ていかななくてはならないと思っているのではないかと想像しました。仕事だけではなく、都会には田舎にないものがたくさんあります。都会と同じものが欲

しいと思った時期もありましたが、現実的には不可能ですし、都会と同じものを田舎に作るものが解決につながるというものでもないということも分かってきました。足りないものがあれば、生み出せばいいし、生み出すことができるのだということ子どもたちに知ってもらう機会を積極的に提供することが、将来のための種まきになるのではないかと思います。何か新しいことを始める人がいたら、一緒に盛り上げようという空気を、まち全体でつくっていくことがとても大事だと思います。

(委員) 子どもが2人いるのですが、はたして鹿角で自分の子どもに夢や希望を語っている親がどれくらいいるのだろうと思うことがあります。親が夢や希望を語らなければ、当然、子どもには伝わらないと思います。どうやったら、子育て世代の30代や40代の人たちが夢を語れるかと考えると、きちんと稼げるかどうかということは外せないと思います。稼ぐというのはどういうことか考えると、利益を確保して配分する経営者の責任は重いですし、業種や業態、商品によって違いがあるかとは思いますが、共通して言えるのは、鹿角にあるたくさんの素晴らしいもの、一つひとつの価値を高めて、安売りせずに利益を得ることが大事であり、そういう環境を地域全体で考えていくことが大切だと思います。学生のアンケートで、確かに温泉のワードが出ていないですが、それ以外にも、お米や水もおいしいし、山菜もあります。年に1、2度、中学校や高校に出向いて、お話しさせてもらう機会がありますが、鹿角のいいところを尋ねても、すぐ返答がないことが多いです。あまりに身近過ぎて、自分たちの周りにあるものの価値を親が語れていないし、子どもの目にも映っていないように思います。何によって稼ぐことができているのか、我々が子どもたちに伝えきれていないのかもしれないかもしれません。そのために、学校教育でも民間の事業者を呼んだ課外授業をやっているのだと思いますが、そういう取り組みもしていかないと、自分たちの地域の価値に気づいて、地元で頑張っていこうという気にならないのかなと感じています。

(会長) 鹿角にある文化や自然などの財産を、そのまま10年後、20年後、30年後すべて持っていけるかということ、非常に難しいのではないかと思います。例えば、花輪ばやしも誇れるものですが、現実はとても厳しいと思います。それ以外にも、いいものでも残せないものもあると思います。残す努力も必要ですが、取捨選択もして、現実感のあるまちづくりが必要だと感じます。日本全体を見ても、地方は生き残りをかけているような状況ですが、現実的なことも想定しながら、鹿角らしく残っていくために何が必要なのか、考えていきたいです。

(委員) 国立公園の十和田湖と八幡平があります。昔は、観光客がたくさんいましたが、今は日帰り客が多く宿泊客もいません。八幡平も岩手県側はたくさん観光客が来ているようですが、鹿角側からは観光客が来ていないようです。鹿角はいいところがたくさんあるのに、と思います。花輪ばやしの話が出ましたが、駐車場も少ないし、地元の人が簡単に見られないように感じます。小さい頃から教えないと良さも分からないと思うのでPRしてほしいです。また、農業も後継ぎがいないです。若い人がやる気になれば稼げると思うので、盛り上げていきたいです。

(事務局) たくさんのご意見をいただきましたが、2回目の会議では、市のあるべき姿とそれに向けた取り組みとしておりますが、今回の続きのようなご意見もいただき、鹿角市に必要なものを整理していきたいと思っておりますので引き続きよろしく申し上げます。

## 6 閉会 (20:35 終了)